



ふれあい市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

人生100年時代の「働くシニア応援プロジェクト」

「人生100年時代」という言葉が定着してきました。高齢になって、若い頃にはできなかった趣味活動、資格取得、社会貢献などの自己実現が可能な時代になりつつあります。

一方で、南あわじ市の高齢化率（65歳以上）は34%を超え、人口減少も進んでいます。その結果、労働力が不足し、建設業、観光業、介護サービスなど、多くの分野で働き手を募集しても応募がない状況が続いています。地域社会を維持していくために、シニア世代の力が必要な時代になったとも言えます。

南あわじ市では、平成29年度から「高齢者等元気活躍推進事業」を推進しています。意欲のあるシニアの方々が社会が必要としている活動に結びつけ、これまで培った経験や知識を生かして活躍する場を広げようという取り組みです。

その手立ての一つは、昨年10月より試行実施している「おもいやりポイント制度」。シニアが介護施設や保育施設などで、1回1～2時間の補助的な活動を行い、市内で使える商品券に交換できるポイントを得る有償ボランティア活動



保育施設や介護施設での有償ボランティア活動

です。今年度から、市役所に「生涯活躍推進室」を設け、さらに普及を進めています。

もう一つは、今月から始める「働くシニア応援プロジェクト」です。これは、従来の固定観念を取り払い、シニアの方々自身の体力やライフスタイルに合わせた柔軟な働き方を工夫することにより、人手を必要としている分野でのシニアの仕事の可能性を広げる取り組みです。シニア世代が年金に加えて収入を得ることができ、事業者も必要な人材を確保しながら成長を続けていけるモデルづくりを目標にしています。市とモデル事業者が協力して、就労内容や採用手法を工夫するなど、シニアが無理なく働ける就労環境の整備と、事業者の人手不足の軽減を両立する方法を実証していきます。

ボランティア活動や仕事が増えると、年齢や健康状態、生活に合わせた多様な社会活動の選択肢が広がります。長きにわたり、社会とかかわり続けて健康的な生活を送る南あわじ市民が増えていってほしいと思っています。

今月の8日（火）には「南あわじ版『人生二毛作社会』の実現に向けた大・会・議」というテーマで、シンポジウムを開催します（午後2時開始／中央公民館）。多くのシニアが仕事で活躍している先進企業の事例を参考に、これからの南あわじ市の姿や市民一人ひとりの役割を皆さまと一緒に考える機会にしたいと思っています。多くの方々のご来場をお待ちしています。

地域創成生涯学習講座

場所 同大キャンパス内大講義室（C棟3階）
申込み・問合せ 同大地域連携センター ☎ 42-4708
※要申込・参加無料

《10月開講講座》

- 第2回 「麦飯、食べませんか？」
日時：10月7日（月） 午前10時30分～正午
講師：農学部地域創成農学科 准教授 氷見 英子
第3回 「健康と身体を動かすこと」
日時：10月19日（土） 午後1時30分～3時
講師：社会科学部スポーツ社会学科 准教授 天岡 寛
第4回 「食べて健康に - 食品機能の追求から -」
日時：10月30日（水） 午前10時30分～正午
講師：農学部醸造学科 教授 土井 裕司

吉備国際大学からのお知らせ



第4回学園祭の開催

年に一度の大イベント学園祭「第4回くにうみ祭」を開催します。老若男女誰でも楽しめる企画をたくさん準備しています。皆さまのご来場をお待ちしています。

日時 11月16日（土）午前10時～午後4時
場所 同大キャンパス内
イベント 玉ねぎ早食い競争、宝探し、ビンゴ大会、トリックアート、吹奏楽（淡路三原高、南淡中、広田中）、三原志知小学校和太鼓「志童」など
※イベントの詳細は来月号に掲載予定
☎同大事務室 ☎ 42-4700

地域づくりチャレンジ事業 丸山「献上鯛」でまちおこし

地域の課題解決への取り組みを南あわじ市が応援する「地域づくりチャレンジ事業」。丸山地域づくり協議会や南あわじ漁協、住民有志らで結成する「丸山献上鯛」から「献上隊（鯛）事業」の提案がありました。



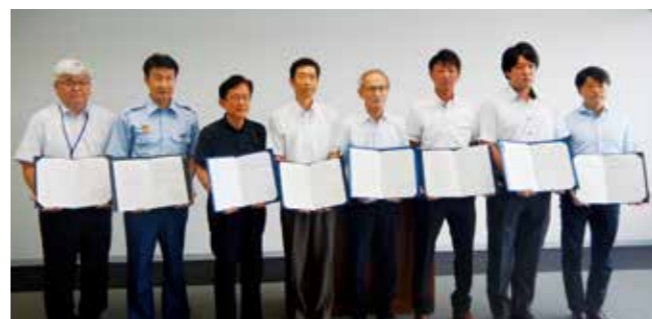
丸山献上隊のメンバーら

丸山漁港の献上鯛は、大正、昭和、平成の3代にわたり天皇に献上され、11月の令和の大嘗祭でも献上に向けて準備中。事業では献上鯛などのブランド化やコミュニティカフェの運営を通じて、まちの活性化をめざします。

県石油商業組合淡路支部と協定 災害時に緊急車両へ優先給油

南海トラフ巨大地震などの災害に備え、島内3市と淡路広域消防事務組合、淡路広域水道企業団は8月22日、兵庫県石油商業組合淡路支部と「災害時の支援活動等における相互協力に関する協定」を締結しました。

同日、洲本市内で締結式が行われ、守本市長は「災害時の実行性を高めるため、日ごろからコミュニケーションを図りたい」とあいさつ。同支部の岡本和之支部長は「東日本大震災ではスタンドに長蛇の列ができた。緊急車両の優先給油に協力したい」と話していました。



県石油商業組合淡路支部と協定を締結した島内3市長ら



守本市長と記念撮影をする金藤さん(右)

いつまでもお元気で 市長が100歳を祝い訪問

今年度100歳を迎える高齢者をお祝いするため、9月2日、守本市長が希望者宅を訪問しました。養護老人ホームさくら苑で生活する金藤徳榮さんのもとを訪れた守本市長は、お祝いの状を贈呈。金藤さんは「こんな風に祝っていただきありがとうございます」と感謝していました。



宮城県石巻市の大川小学校跡地を訪問した児童・生徒

市内小中学生が東北被災地へ 市役所で活動報告

8月1日～3日までの3日間、市内の小中学生4人と中学生15人、淡路三原高校の生徒22人が宮城県石巻市と東松島市を訪れました。南あわじ市では、過去の災害から防災について学ぶため、平成29年度から市内の中学生を東日本大震災の被災地へ派遣しています。今年初めて小学生も参加し、

石巻市の大川小学校跡地で語り部の話を聞いたり、東松島市あおい地区の住民と交流を行ったりしました。8月28日に市役所で報告会が行われ、参加した学生は、防災を他人事ではなく「自分ごと」として考えることの大切さなど、体験を通じて感じたこと、学んだことを報告しました。